

令和4年度坂東市小学校教育課程特例校（英語）の取組について

1 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校1、2年生から英語活動を導入して、英語に慣れ親しませ、発達段階に応じて英語を使って楽しく活動し、豊かなコミュニケーションを図る。また、言語や文化に対して興味関心を持ち、国際社会への関心を深めるため、特別の教育課程を編成し、実施していく。

低学年 ※特別の教育課程	・第1学年 週1回45分（生活科の授業時数削減） 年間20時間 ・第2学年 週1回45分（生活科の授業時数削減） 年間20時間 ・学級担任と外国語指導助手（ALT）とのチームティーチング
中学年	・第3、4学年 週1回45分 年間35時間 ・学級担任または英語専科教員と外国語指導助手（ALT）とのチームティーチング
高学年	・第5、6学年 週2回45分 年間70時間 ・学級担任または英語専科教員と外国語指導助手（ALT）とのチームティーチング

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

坂東市では、英語への興味関心を高めること、また将来の坂東市を担う国際人を育成することをねらいとして、英語に慣れ親しみ、英語を使って楽しく活動する「英語活動」の時間を平成27年度より新設している。学級担任と外国語指導助手とのチームティーチングで授業を行っており、「英語活動」の時間は、外国語指導助手の生きた英語に触れ、児童は生き生きと活動している。

小学校と中学校の9年間を通じて切れ目ない英語教育を行い、これまでの取組をさらに発展させるために、教育課程の特例措置の申請を行う。

2 実施の効果及び課題

(1) 効果

多くの児童は、楽しみながら積極的にALTと会話をしたり、友達とやりとりをしたりしながら意欲的に言語活動に取り組んでおり、英語活動へのやりがいを感じている。音声中心の学習活動を継続してきたことで、ALTの発音を聞いて理解したり、同じような発音でリピートしたりすることに成果が見られる。学級担任や英語専科教員は、ALTの効果的な活用や教材を工夫しながら指導法改善を図っている。中学校入学時点で、自分の好きなことやできることなど、身近なことから話することができる生徒が増えている。

(2) 課題

指導力向上のために、小学校教諭のため研修や訪問指導を通して、効果的な取組や指導方法についての共有を図っていく。また、積極的に相互参観等を実施し、お互いの指導内容について理解を深めるなど、英語教育における小・中連携を深め、より円滑な接続を目指す。また、ALTとのチームティーチングをより効果的にするために、デジタル教材や1人1台端末等を積極的に活用し、より児童が英語に興味をもつことができる授業を展開していく必要がある。